



(東京青山斎場にて)

故倉橋惣三先生 御葬儀の記

四月二十一日、午後三時五十分、幼稚園界の大恩人である倉橋惣三先生は、中野の御自宅で永眠された。

先生は此の数年間、御健康がすぐれなかつたが、最近は比較的お元気になり、人の訪うのを楽しみしておられ、前日も庭におりて帯木を持たれる程、平常と変らぬ御生活であつた。四月二十一日は幼稚園の始祖フレイベルの誕生日であるが、此の日は朝から御気分が勝れず、目まいがすると床に臥れ、幾度か嘔吐を催され、発汗が甚だしかつたので、奥様は神田の侍医に電話をなされ、偶々広島に御出張中の御長男にも電話をされて、御居間に戻られた途端に大きな呼吸と共に卒然と逝かれたのである。此の、日頃の静かな御生活そのままに、誠に倉橋先生にふさわしい大往生であつた。

待ちこがれておられた御長男が御帰宅になるまでは一切そのままにということ、誰にも知らされず、翌朝ラジオと新聞がその報を伝えるや、先生をお慕い申上げていた人々が、顎然として全国から、最後のお別れにと集つて来たのであつた。ゆきなれた、ご門か

らの長い石だたみの道を此の日は、誰しもが何と違つた心持で足を運んだことであらう。

先生の寝姿は、まるで眠るように、何の苦痛の色もなく、安らかにして平和であつた。

今は声もなく床に臥される先生の御顔に静かに合掌した。

御葬儀は二十四日の午後、青山斎場にてと取りきめられ、二十二日と二十三の二日は夜おそくまで、中野の倉橋家には弔問客と、百通をこえる弔電とが後も絶たなかつた。先生

のお好きな桜の花片がひらひらとお居間の前の庭に散つているのも悲しかつた。

二十三日の午前には、先生が御生前親しく御進講申し上げた皇后陛下、お遊び相手としてお仕へ申上げた皇太子殿下より、御供物が届けられた。

四月廿四日の日曜日朝から薄曇り、午前十時に出棺の式が営なまれ、十一時五十分に入久しく住み馴れた千光前町の御宅の門からお送りした。

葬儀は午後一時から青山斎場で、神式にて行われ、御遺族を始め、お茶の水女子大学、

日本幼稚園協会、日本保育学会、国公立幼稚園長会、全国私立幼稚園連合会、みどり合等

各界の代表者達の参列のもとに、御令兄菅原教授氏の司会によつて、いと奥床しく又清楚に行なわれた。哀愁にみちた笛の音と共に御

供物が献げられ、故人の学み来し道を頌えるのりとはあげられ、各幼稚園団体の弔辞が読

まれた時には、一同声をあげて泣いた。

故倉橋惣三の棺と黒く書かれた墨の色が悲しい。

二時からの一般告別式はさしもの青山斎場が、四列になつて玉串を捧げる数千の人の波

で埋まり、一時間の間ひきもぎらせぬ盛葬であつた。五十年の長きに亘つて我が国保育界のために尽された先生の御遺徳が今更ながら偲ばれる。

御葬儀の後、直ちに落合の火葬場にて茶毘に附され、真新らしい、白木の箱に納められた。生涯を共にされて来た御夫人及び御子息、御令嬢の悲しみが察せられる。

外にはいつの間にか雨が降り初め、薄寒く既に宵闇が迫つていた。

先生が最後まで深く愛されて来た幼稚園の先生方と共に、心より故倉橋惣三先生の御冥福をお祈りする。
(津守記)

* * *

倉橋惣三先生の思い出を募集致します。
出来るだけ早く原稿をお送り下さい。

宛先 東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学内

日本幼稚園協会